

令和5年度 公民科「NIE」シラバス

教科名	NIE	教科名	公民科	学年	2年
単位数	2単位				

1 学習の到達目標

学習の到達目標	現代の社会で起こっている時事問題の基本的な仕組みを理解し、メディアリテラシーを身につける。また、グループ学習や討論などを通して言語活動の充実を図り、自己理解や他者理解の力を育成することで公民的な資質を養う。
---------	---

2 学習計画に関する指導順序と選択指導について※『高等学校学習指導要領解説 総則編』より

各教科・科目及び特別活動の内容に掲げる事項の順序	各教科・科目及び特別活動の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱について適切な工夫を加えるものとする。
学習指導要領で示されている内容を適切に選択して指導する場合の配慮事項	学校においては、特に必要がある場合には、「教育課程の基準」及び「教育課程の編成及び実施」に示す教科及び科目の目標の趣旨を損なわない範囲内で、各教科・科目の内容に関する事項について、基礎的・基本的事項に重点を置くなどその内容を適切に選択して指導することができる。

3 科目全体の評価の観点趣旨

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代社会の時事的な事柄と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。	現代社会の時事的な事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の時事的な事柄と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。

4 各学期及び学年の評価方法 ※評価簿の作成を行う。

評価	内 容	判定基準
A	十分に理解できると判断されるもの	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出
B	おおむね満足できると判断されるもの	
C	努力を要すると判断されるもの	

月（時間）	学期の学習内容	各月の学習内容	指導上の留意点
4月 (6)	1 地球環境問題	①地球温暖化 ②オゾン層の破壊 ③酸性雨 ④森林破壊と砂漠化	・地球規模の環境問題と人間とのかかわり、よりよい環境を次世代にどう引き継ぐか考えさせる。
5月 (8)	2 生命倫理	①尊厳死と安楽死 ②臓器移植 ③遺伝子操作について	・現代の医療や生命科学の急速な発達、人間の生と死・私たちの生き方 にどう関わっていくか考えさせる。

6月 (8)	3 時事問題Ⅰ	①金融について ②日経新聞 NIE ③沖縄の基地問題について	・最近の身近な出来事を学ぶことで社会と自分の生活に関心を持たせる。
7月 (6)	4 時事問題Ⅱ	①琉球新報 NIE ②選挙について ③東京オリンピック	・最近の身近な出来事を学ぶことで社会と自分の生活に関心を持たせる。
8・9月 (8)	5 時事問題Ⅲ	①キャリアデザイン ②技術は人を幸せにする ③動物の殺処分反対	・最近の身近な出来事を学ぶことで社会と自分の生活に関心を持たせる。
10月 (8)	6 時事問題Ⅳ	①そもそも論 ②これって違反なの？ ③新しい人権	・基本的人権の尊重について、身近な事例をとりあげ考えさせる。
11月 (8)	7 時事問題Ⅴ	①ユニバーサルデザイン ②高齢化社会 ③メディアリテラシー	・最近の身近な出来事を学ぶことで社会と自分の生活に関心を持たせる。今後の日本の在り方について考えさせる。
12月 (6)	8 政治と私たちの暮らし	①憲法改正問題 ②公共の福祉とは ③国境と領土問題	・政治は身近な存在であり、私たち個々人の生活に与える影響が大きいことを事例から考えさせる。 ・世界各地で起こっている民族・内戦問題を通して、何をなすべきか考えさせる。また、沖縄の基地問題から平和について考えさせる。
1月 (6)	9 現代の経済社会	①市場価格と株式 ②働き方改革について	・基本的人権の尊重について、身近な事例をとりあげ考えさせる。
2月 (4)	10 現代の経済社会	①食の安全について ②社会保障と消費者主権	・最近の身近な出来事を学ぶことで社会と自分の生活に関心を持たせる。
3月 (2)	11 時事問題Ⅵ	①仮想通貨の話 ②カードローンと悪徳商法 ③南北問題	・最近の身近な出来事を学ぶことで社会と自分の生活に関心を持たせる。
総時数 70			

令和５年度 公民科「高等学校 新現代社会」シラバス

教科名	現代社会	教科名	公民科	学年	３年
単位数	３単位				

１ 学習の到達目標

学習の到達目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--

２ 学習計画に関する指導順序と選択指導について※『高等学校学習指導要領解説 総則編』より

各教科・科目及び特別活動の内容に掲げる事項の順序	各教科・科目及び特別活動の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱について適切な工夫を加えるものとする。
学習指導要領で示されている内容を適切に選択して指導する場合の配慮事項	学校においては、特に必要がある場合には、「教育課程の基準」及び「教育課程の編成及び実施」に示す教科及び科目の目標の趣旨を損なわない範囲内で、各教科・科目の内容に関する事項について、基礎的・基本的な事項に重点を置くなどその内容を適切に選択して指導することができる。

３ 科目全体の評価の観点趣旨

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用・技能	d. 知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

４ 観点別学習状況の評価の数量化※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定 ※評価簿の作成を行う。

評 価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

５ 各学期及び学年の評価方法（各学期及び学年は、次の「学習計画及び評価方法」で記載する。）

評 価 内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	4 5 月	第1編 私たちの生きる社会 世界のさまざまな課題 1. 環境と私たちの生活 ①地球環境のいま(1) ②地球環境のいま(2) ③私たちの地球を守るために	- これから学習していくさまざまな課題が世界には存在していることを理解する。 - 地球規模の環境問題にはどのようなものがあるかを、書籍やインターネットなどを用いて調べ、理解する。 - さまざまな環境問題と人間の活動とのかかわりについて、教科書掲載の写真や地図を使いながら理解する。 - 環境問題への国際的取り組みを踏まえ、自然と共生するよりよい環境を次の世代に引き継ぐためにはどうしたらよいか考える。 - 地球の温暖化対策への考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。	○	○		○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
		2. 資源・エネルギー問題と私たちの生活 ①限りある資源 ②資源問題の解決をめざして	- 資源の有限性について理解を深め、原子力発電の問題を例に、資源・エネルギー問題について多角的に考える。 - 資源・エネルギー問題について、書籍やインターネットなどを用いて調べ、理解する。 - エネルギー政策の見直しとともに新エネルギーの現状について理解し、省エネルギーと循環型社会について考える。 - 資源・エネルギー問題の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。		○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
		3. 科学技術の発達と私たちの生命 ①科学技術の発達と生命 ②生命倫理をめぐる問題	- 科学技術の発達が社会や生活をどのように変えてきたか考える。 - 医療の発達により、人類がはじめて直面する問題が生じていることを、具体的事例をあげて考える。 - 生命倫理をめぐる問題について、どのようなものがあるか新聞やインターネットなどで調べ、それらについて現状と課題とまとめる。 - 生命にかかわる課題の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解させる。		○		○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
		4. 高度情報社会と私たちの生活 ①情報の高度化の進展 ②高度情報社会の課題	- 高度情報社会とは何かについて理解し、情報化の進展が社会に及ぼす影響について、新聞やインターネットなどを使って調べ、理解する。 - 高度情報社会で生きていくために必要な知識を身に付け課題についてどう取り組めばよいか考えることを通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	5	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己の形成 私たちの一日と青年期 ①青年期とは ②青年期を充実させるために ③自立に向けて ④伝統や文化とのかかわり ⑤社会とのかかわり ⑥私たちの生きがい	- 人生の中で青年期はどのような意味をもつのか考え、青年期におけるさまざまな悩みと、それを克服するためにはどのようにすればよいか考える。 - 一人前の人間として自立するためには何をしたらよいか考える。 - 伝統や文化と自らの行動様式や考え方との関係について考察する。 - 職業のもつ意味、社会に参加することの意義について書籍やインターネットで調べ、一人ひとりが社会づくりに参画していく必要のあることを理解する。 - 生涯にわたって学習していくことの意義を考える。	○	○		○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
		第2章 個人の尊重と法の支配 私たちの一生と法 ①個人と国家 ②法の支配 ③基本的人権と法の支配 ④世界の政治体制	- 私たちの生活と政治や国家のかかわりについて関心を高め、国家はどのような考え方を背景につくられたのかを理解する。 - 基本的人権が保障されるにいたった経緯を、さまざまな情報手段で資料を収集し、具体的事例をあげて考察し、理解する。 - 世界のおもな政治体制について教科書の図などを使って理解し、真の民主政治の実現と関連させて考察する。	○	○		○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査

	6	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 私たちの町と政治 ①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と日本の安全保障 ③冷戦終結後の防衛問題 ④平等に生きる権利 ⑤自由に生きる権利 ⑥豊かに生きる権利 ⑦新しい人権 ⑧基本的人権と公共の福祉	・日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較、天皇の地位の変化、日本国憲法の三つの基本原理について主体的に理解する。 ・平和主義をめぐって、どのような動きがあったのかを理解する。また、自衛隊をめぐる問題について理解する。 ・日米安保体制はどのような背景から生まれ、どう変化してきたのか理解する。 ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について調べ、その解決策を考える。 ・社会権が私たちの生活をどのように変えたかを考える。また、新しい人権にはどのようなものがあるか理解する。 ・基本的人権と公共の福祉の関係について理解し、社会における望ましい解決策を、新聞などさまざまな情報手段を活用して調べ、話し合う。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査				
	7	⑨国会の運営と権限 ⑩内閣と行政の民主化 ⑪裁判所と人権保障	・議会制民主主義とはどのようなものか、国権の最高機関である国会について理解する。 ・議院内閣制のしくみ、内閣の組織と権限について理解し、行政の民主化のために何が必要か考える。 ・裁判所のパンフレットなどを入手して裁判員制度を含む公正な裁判のための制度について理解する。また、憲法を守るための裁判所の権限について理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査				
	2	9	⑫地方自治と住民の福祉 ⑬選挙制度の現状と課題 ⑭世論の形成と政治参加	・地方自治の意味と地方自治の発展のための課題について自分自身の問題として具体的に考える。 ・国会議員の選挙制度はどのようなしくみか、また、どのような課題があるのかを理解する。 ・国民が政治に参加する方法にはどのようなものがあるかささまざまな手段を使って調べ、住民にとって生活しやすい政治のために必要な行動を話し合う。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査			
	9	第4章 国際政治の動向と日本の役割 国際政治の動向と私たちにできること ①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③第二次世界大戦後の国際社会 ④冷戦終結後の国際社会 ⑤核兵器の廃絶と国際平和	・主権国家とはどのようなものか、国際社会における国際法の役割と限界について理解する。 ・国連の成立、役割と課題について理解する。 ・第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況について、年表を使って整理し、理解する。 ・核兵器を廃絶するためにどのような取り組みがおこなわれているか、また、国際平和のために何をしなければならぬか、さまざまな情報手段を活用して調べ、まとめる。 ・核兵器の問題についての知識を身につけ、それを廃絶するために何をしなければならぬかを理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査				
	2	10	⑥地域紛争と人種・民族問題 ⑦国境と領土問題 ⑧日本の役割と私たちの生き方	・民族や宗教の対立による紛争にはどのようなものがあるか、人種・民族紛争の実態、難民問題について理解する。 ・国境と領土問題や日本の領土問題について、教科書の写真・地図を使用して理解する。 ・日本の外交の基本方針を理解し、アジアの一員としての日本の役割について考える。 ・国際社会における日本の役割、国際社会の一員として何をすべきか考える。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査			
	10	第5章 現代の経済社会と私たちの生活 私たちの町と経済 ①経済と私たちの生活 ②経済体制の変容 ③現代の企業 ④市場のしくみ ⑤国民所得と私たちの生活 ⑥景気変動と物価の動き	・私たちの生活と密接にかかわる経済の基本的なしくみを理解し、資本主義経済と社会主義経済の特徴を理解する。 ・企業の活動内容、企業の負っている社会的責任について理解し、株式会社の特徴についてまとめる。 ・市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解する。 ・国民所得について、教科書に掲載されている図版を適切に使用し、理解する。 ・景気変動について理解し、経済成長は生活にどのような変化を与えるかを、具体的事例をあげて考える。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査				
学習項目				学習内容(ねらい) および評価の観点				a	b	c	d	評価方法

	11	⑦財政のしくみと税金 ⑧日本の財政の課題 ⑨金融機関のはたらき ⑩戦後日本経済のあゆみ (1) ⑪戦後日本経済のあゆみ (2) ⑫技術革新の進展と産業構造の変化 ⑬中小企業の現状と役割 ⑭食の安全とこれからの日本の農業	- 政府はどのような経済的役割をもっているかを理解する。 - 財政にはどのような機能と役割が求められているか、日本の財政の課題は何かを理解する。 - 金融機関の果たしている役割、中央銀行の金融政策について理解する。 - 第二次世界大戦終結から現在まで、日本の経済発展のあゆみについて年表を使って理解し、現在の日本経済の課題と新たな取り組みについて考える。 - 技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、新聞やインターネットを活用して身近な問題と関連させて考察する。 - 中小企業の現状と役割について理解する。 - 日本の農業政策の推移を理解し、これからの日本の農業、食料政策などの問題について考える。	○	○		○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	12	⑮雇用と労働問題 ⑯労働環境の整備 ⑰公害の防止から環境保全へ ⑱消費者問題と消費者主権 ⑲社会保障と福祉社会 ⑳これからの社会保障	- 労働運動の展開と労働基本権について理解し、近年の雇用事情の変化について考える。 - 雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体的事例をあげて多角的に考察する。 - 公害の原因と、それに対する国・企業の責任について理解し、公害を防止するためにはどうすべきか考える。 - 消費者は契約についてどのような自覚が必要かを考え、消費者問題に対する企業の責任や国の対策について理解する。 - 日本の社会保障制度の特徴、少子高齢社会の課題について理解する。 - 消費者問題、日本の社会保障について、さまざまな情報手段を活用して情報を収集し、調査した内容をまとめて話し合うなど、適切に表現する。		○		○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
3	1	第6章 国際経済の動向と日本の役割 国際経済の動向と私たちにできること ①国際分業と貿易 ②国際経済体制のあゆみ ③国際収支と為替相場 ④国際経済の動向 ⑤進む地域経済統合 ⑥発展途上国の経済と南北問題 ⑦国際社会のこれから	- 自由貿易と保護貿易の違いについて考え、自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割について理解する。 - 自由貿易推進のために国際的な協調体制がとられてきた経緯を理解し、国際収支の変化、為替相場の変動が経済に及ぼす影響について理解する。 - 貿易の意義、円高・円安の生じる理由、経済のグローバル化について考え、身近な事例をもとにレポートを作成するなど、適切に表現する。 - 日本の貿易やアメリカ、アジアなどの貿易について理解し、貿易の拡大とそれにともなう貿易摩擦について、具体的事例をあげて考察する。 - 国際経済機構や地域経済統合にはどのようなものがあるか理解する。 - 南北問題の原因、発展途上国のかかえている問題について理解し、南北問題解決のために日本は何をすべきか考える。	○	○		○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
学年	月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
3	2	第7章 民主社会に生きる倫理 私たちの悩みと倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③近代の西洋社会に見られる考え方 ④近代市民社会から大衆社会へ ⑤他者とともに生きる ⑥豊かな社会の実現に向けて	- 哲学や宗教の役割を理解するとともに、人生を豊かに生きるとはどういうことなのかを多角的に考察する。 - 日本の伝統意識を理解し、生活の中での仏教や儒教、西洋思想の影響について、具体的事例をあげて考察する。 - 人間の尊厳や科学的なものの考え方、民主的社会を樹立するために必要な考え方の理解を深めるため、図版や原典資料を適切に使用する。 - 平等な社会の実現には、偏見を取りのぞき、主体的に努力することが求められていることを理解する。 - 差別を生み出す偏見について考え、それを克服して、ともに生きるために私たちは何をすべきか、自分自身の問題として考える。	○	○		○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	3	第3編 とともに生きる社会をめざして ケーススタディ ①社会保障と消費税 ②クジラは野生保護動物か、水産資源か ③人口問題と私たちの未来	- 教科書に掲載されている図版や写真・資料などを適切に使用し、政治課題としてよく取り上げられる消費税について考えたり、捕鯨問題について考えたり、人口問題を通して私たちの未来を考察したりする。 - 調べた内容をまとめて発表したり、レポートを作成したりするなど、適切に表現する。	○	○	○		- 授業態度 - 発問評価 - ノート提出 - レポート作成 - 発表 - 定期考査

科目	公共	単位	2	学年	1・2
使用教科書	高等学校 新公共(第一学習社)			副教材等	新公共ノート（第一学習社）

学習の到達目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち ①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④伝統文化とのかかわり ⑤自立した主体をめざして	■社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ①人間と社会のあり方についての見方・考え方	■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・現代の諸課題について自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、上に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方につ	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
5		いて探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・公共的な空間における人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○ ○	○	
	第3章 公共的な空間における基本的原理 ①人間の尊厳と平等、個人の尊重 ②民主主義と法の支配 ③自由・権利と責任・義務 ④日本国憲法に生きる基本的原理	■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・公共的な空間における基本的原理について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち					
	第1章 法的な主体となる私たち	■憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。				
	主題1 法や規範の意義と役割 ①私たちと法 ②法と基本的人権 ③自由に生きる権利と法・規範 ④平等に生きる権利と法・規範 ⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範 ⑥法をよりよいものにするための権利	■法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 ・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・中学校までに学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○ ○	○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
6	主題2 契約と消費者の権利・責任 ①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任	■契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。 ・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	○ ○	○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
7		・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			○	
	主題3 司法参加の意義 ①裁判所と司法 ②国民の司法参加	■個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 ・司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・政治分野の国会・内閣のしくみとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第2章 政治的な主体となる私たち	■よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。				
	主題4 政治参加と公正な世論形成 ①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題 ③世論の形成と政治参加 ④国会と立法 ⑤内閣と行政 ⑥地方自治と住民福祉	■民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・中学校までに学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
9	主題5 国際社会と国家主権 ①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題	■主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。 ・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・国際社会の特徴と課題について、幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題6 日本の安全保障と防衛 ①平和主義と安全保障 ②日本の安全保障体制の変容 ③核兵器の廃絶と国際平和	■日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・日本の安全保障と防衛に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・日本の安全保障と防衛について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題7 国際社会の変化と日本の	■国際平和を実現するために必要な日本の役割を理解する。 ・国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や	○			・授業態度 ・発問評価
10						

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
11	役割 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本の役割	課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・中学校までに学んだ知識や、地理・歴史など他教科で学んだ知識もふまえ、経済分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第3章 経済的な主体となる私たち	■公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。				
	主題8 雇用と労働問題 ①私たちと経済 ②労働者と権利 ③労働環境と課題	■少子高齢化による労働力不足が問題となるなか、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。 ・雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・法分野の基本的人権とも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題9 社会の変化と職業観 ①日本経済のこれまでとこれから ②技術革新の進展 ③現代の企業 ④中小企業の現状と役割 ⑤日本の農林水産業	■グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。 ・社会の変化と職業観に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・歴史や情報など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題10 市場経済の機能と限界 ①市場経済と経済運営 ②市場のしくみ ③経済発展と環境保全 ④国民所得と私たちの生活 ⑤経済成長と国民の福祉	■公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。 ・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・歴史など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
12	主題11 金融のはたらき	■経済において、金融市場はどのような役割を果たしている				・授業態度

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
1	①金融の意義と役割 ②金融のいま	のか理解する。 - 金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 - 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 - 家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 - 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 - 金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			- 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	主題 12 財政の役割と社会保障 ①財政のしくみと租税 ②日本の財政の課題 ③社会保障と国民福祉 ④これからの社会保障	■少子高齢化が進むなかで、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 - 財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 - 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 - 少子高齢化・人口減少などの社会背景をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して考えている。 - 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 - 財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	主題 13 経済のグローバル化 ①国際分業と貿易 ②国際収支と国際経済体制 ③外国為替相場の動き ④グローバル化する経済 ⑤地域的経済統合 ⑥国際社会における貧困や格差 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから	■経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。 - 経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 - 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 - 地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。 - 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 - 経済のグローバル化について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
2						
3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①排出権取引を考える～地球環境問題 ②ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題 ③ゲノム編集を考える～生命倫理 ④インターネットによる投票を考える～情報 ⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題	■持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。 - これまで学んだ内容や課題を解決するための知識を理解している。 - 地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 - これまでの学習を関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 - その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。 - 現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			- 授業態度 - 発問評価 - ノート提出 - レポート作成 - 発表 - 定期考査

校 長	教 頭	教 頭

科目	歴史総合	単位	2	学年	1・2
使用教科書	高等学校 新歴史総合(第一学習社)711			副教材等	新歴史総合ノート(第一学習社)

学習の到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
4	②歴史の特質と資料	・日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、図像などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
4	第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち 近代化への問い	・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
5 9	第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 工業化の進展と国民国家の建設 第3節 結び付く世界と日本の開国 第4節 帝国主義とアジア諸国の変容	・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝	○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
		国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。		○		
9	近代化と現代的な諸課題	・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い	・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
10 11	第1節 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
11 12	第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦後の世界と日本	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
		影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。			○	
12	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
1	第3章 グローバル化と私たち グローバル化への問い	・冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ・グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
1 2	第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。 ・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 ・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
2 3	第2節 世界秩序の変容と日本	・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。 ・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
3	現代的な諸課題の形成と展望	・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、構想し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査